

≪今週号の主な内容≫

■先週・今週の報道発表

1. 国際資源循環の促進に向けた G7 資源効率アライアンスワークショップ
【経済産業省 平成 28 年 11 月 17 日発表、12 月 14 日開催】
2. 中央環境審議会循環型社会部会特定有害廃棄物等の輸出入等の規制の在り方に関する専門委員会、産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会有害廃棄物等越境移動ワーキンググループ合同会議（第 2 回）
【環境省 平成 28 年 12 月 1 日】
3. 産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会小型家電リサイクルワーキンググループ（第 2 回）中央環境審議会循環型社会部会小型電気電子機器リサイクル制度及び使用済製品中の有用金属の再生利用に関する小委員会（第 15 回）合同会合の開催について
【環境省 平成 28 年 12 月 5 日】
4. 第 1 回災害廃棄物対策推進検討会の開催について
【環境省 平成 28 年 12 月 6 日】

■RPPC 事務局からのお知らせ

平成 28 年度リサイクルポートセミナーを開催しました。
（平成 28 年 12 月 5 日）

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 北九州市、北九州港響灘東地区海面処分場の整備を本格化
2. 秋田県、秋田港の長期構想を検討へ
3. 秋田県、秋田港向浜地区の新海面処分計画で護岸設計

=====

◇先週・今週の報道発表

1. 国際資源循環の促進に向けた G7 資源効率アライアンスワークショップ

詳細は下記をご覧ください。開催は 12 月 14 日（水）、
予定参加者数 150 名（定員達し次第締め切り）でございます。

<http://www.meti.go.jp/press/2016/11/20161117002/20161117002.html>

【経済産業省 平成 28 年 11 月 17 日発表、12 月 14 日開催】

2. 中央環境審議会循環型社会部会特定有害廃棄物等の輸出入等の規制の在り方に関する専門委員会、産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会有害廃棄物等越境移動ワーキンググループ合同会議（第 2 回）

詳細は下記をご覧ください <http://www.env.go.jp/press/103301.html>

【環境省 平成 28 年 12 月 1 日】

3. 産業構造審議会産業技術環境分科会廃棄物・リサイクル小委員会小型家電リサイクルワーキンググループ（第2回）中央環境審議会循環型社会部会小型電気電子機器リサイクル制度及び使用済製品中の有用金属の再生利用に関する小委員会（第15回）合同会合の開催について

詳細は下記をご覧ください <http://www.env.go.jp/press/103319.html>
【環境省 平成28年12月5日】

4. 第1回災害廃棄物対策推進検討会の開催について

開催は12月13日です。詳細は下記をご覧ください。
<http://www.env.go.jp/press/103340.html>
【環境省 平成28年12月6日】

=====

◇RPPC事務局からのお知らせ

**平成28年度リサイクルポートセミナーを開催しました
(平成28年12月5日)**

平成28年12月5日（月）、第一ホテル東京シーフォートにて、「平成28年度リサイクルポートセミナー」を開催しました。

今回は、使用済み電気・電子製品等の国内外の資源循環や有用金属の回収等の話題、また、平成28年4月に発生しました「熊本地震」について、被害状況や災害廃棄物対策等について、講演者より話題提供いただきました。

参加者は計86名。非会員の方にも多くご参加いただきました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。開催の詳細については、次号のメルマガでご報告致します。

=====

◇リサイクルポートに関連する最新の情報

1. 北九州市、北九州港響灘東地区海面処分場の整備を本格化

北九州市港湾空港局は、北九州港響灘東地区海面処分場（面積38ha）の整備を今後本格化させる。対象地区について市では今年6月末、公有水面埋立免許を取得、護岸築造に必要な方塊ブロックや消波ブロックなどの整備を進め来ているが、国の28年度第2次補正予算で補助事業費として約44億円が手当てできたことから、同ブロック等の製作を加速するとともに、護岸基礎マウンド等現地工事にも着手する。冬季の響灘は風浪が厳しいため翌債工事として年度内に契約し、新年度明けから現地に入って行く方針。同処分場は概ね平成30年代前半まで護岸・設備等の整備を行い、同前半から50年頃までおよそ15年間に亘って廃棄物や浚渫土砂を受入る。総事業費は約192億円を見込んでいる。

東地区処分場は市内から発生する一般廃棄物や産業廃棄物を投入する廃棄物処分場約22haと航路・泊地の浚渫土砂処分場約16haからなっており、受入容量は廃棄物処分場が一般・産業廃棄物、建設廃材

など約253万立方m、土砂処分場は浚渫土砂約204万立方m。

【港湾空港タイムス】

2. 秋田県、秋田港の長期構想を検討へ

秋田県は秋田港の長期構想の検討を進めている。秋田港の港湾計画は平成18年に改訂しているが、10年近く経過し対岸諸港などの海外情勢の変化や秋田港の利用状況も大きく変化している。臨海地区内で石炭火力発電事業など新たな事業計画や構想も動き出している。

次期改訂計画では概ね平成50年代前半を目標として長期構想を検討するとともに、概ね40年代半ばを目標年次とした港湾計画を策定する。今年9月に秋田港長期構想検討委員会の第1回会合を開いており、来年1～3月に第2回会合を開催し同12月頃長期構想を策定する方針。

【港湾空港タイムス】

3. 秋田県、秋田港向浜地区の新海面処分計画で護岸設計

秋田県は秋田港向浜地区に計画している新海面処分場の護岸設計を今年度実施中。

秋田港では港内の浚渫土砂を飯島地区に残っている水面に処分していたが、満杯になったため新たな処分場が必要になっている。このため向浜地区に面積約27haの浚渫土砂処分場兼ふ頭用地の造成を行う。土砂の受入容量は約180万立方mで、平成40年代前半までに埋立地を竣工させる予定。

【港湾空港タイムス】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：徳田 英司	新日鐵住金（株）
部会員：山崎 和宣	五洋建設（株）
木村 竜也	東京都
梅木 重光	（株）酒田港リサイクル産業センター
新谷 聡	りんかい日産建設（株）

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：本野、清水、菅木

URL：www.rppc.jp E-mail：rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

- 会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がございましたらご連絡下さい。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。
- メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡下さい。
- メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡下さい。